資料７

平成３０年３月

弘前大学大学院（修士課程/博士前期課程）の再編に関する新しい研究科の設置および既設研究科の改組についてのアンケート調査

・日頃より、弘前大学の教育研究にご支援いただき、また、学生の就職にご配慮いただき、誠にありがとうございます。

・このアンケート調査は、弘前大学が 2020 年度（平成 32 年度）に計画している大学院（修士課程／博士前期課程）の再編、具体的には新しい研究科の設置［地域共創科学研究科（修士課程)］と、既設研究科の改組〔人文社会科学研究科（修士課程)、理工学研究科（博士前期課程)、農学生命科学研究科（修士課程)〕について、貴社・貴団体等のご意見を伺うことを目的として実施するものであります。

・このアンケート調査の結果は、統計資料と学生のキャリア支援の充実にのみ用い、他の目的で使用することはありません。

・回答は、該当する番号に ○を付けてください。必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。

・回答は、人材育成・採用に関わっている方にお願いいたします。

弘 前 大 学

★アンケート調査の回答期限についてお願い★

平成３０年３月２３日（金）までに、郵便（同封の返信封筒）にてご回答いただきますようお願いいたします。

問合せ先　弘前大学 学長戦略室　電話：０１７２－３９－３８３７
メールアドレス：jmgaku@hirosaki-u.ac.jp

－　ご協力をよろしくお願いいたします。－

弘前大学大学院（修士／博士前期）の再編内容

現在	2020年度（平成32年度）
	地域共創科学研究科 (新設) ○地域リノベーションコース：コミュニティデザイン、地域リスクマネジメント、環境調和型社会づくり ○共生マーケティングコース：地域活性ブランド、地域産業振興、国際戦略マーケティング
人文社会科学研究科	**人文社会科学研究科（カリキュラムの再編）** ○文化創造コース　○国際共生コース　○公共政策コース
理工学研究科	**理工学研究科（カリキュラムの再編）** ○数物科学コース　○電子情報工学コース ○物質創成化学コース　○機械科学コース ○地球環境防災学コース　○自然エネルギー学コース
農学生命科学研究科	**農学生命科学研究科（カリキュラムの再編）** ○生物学コース　○国際園芸農学コース ○分子生命科学コース　○地域環境工学コース ○食料資源学コース

問1 貴社・貴団体等の採用計画では、どのような出身学歴（最終学歴）の方を採用することをお考えですか。
次の中から「採用対象となる」と思われる番号を 全て 選んで、〇を付けてください。

１　大学院　　２　大学　　３　短期大学　　４　専門学校　　５　その他
（　　　　　　　　　）

問２ 弘前大学大学院（修士課程／博士前期課程）の再編では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を１つ選んで 〇を付けてください。

１　社会人学生として社員を入学させたい

２　当人が希望し、条件があえば社員の社会人入学をサポートする可能性がある

３　当人が希望すれば入学を認めるが、事業主としてはサポートしない

４　社会人学生として社員を入学させる可能性はない

５　その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

問３ 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような支援策があるとよいですか。
当てはまるもの 全て に 〇を付けてください。

１　入学金や授業料等の減免制度　　２　働きながら３年程度の長期期間で修了できる制度

３　週末・夜間など、社会人に適した開講曜日・時間　４　社会人特別枠など負担感の少ない入学者選抜

５　職場・自宅から授業に参加できる仕組み

６　その他

（その他に期待することがあれば、具体的に記載願います。）

問４ 弘前大学大学院（修士課程／博士前期課程）の再編では、地域企業、自治体等へのインターンシップの派遣を検討しています。
インターンシップの受け入れについて、お考えに近い番号を１つ選んで、〇を付けてください。

１　ぜひ受け入れたい
２　可能であれば受け入れたい
→ 問５へ

３　あまり受け入れたくない
４　受け入れられない
→ 問６へ

問５ 問４で「ぜひ受け入れたい」又は「可能であれば受け入れたい」を選択した場合、その理由は何ですか。
当てはまるもの<u>全て</u>に 〇を付けてください。

１　学生に事業内容等を理解してもらい、就職につなげるため
２　社員の成長につながるため
３　職場内の活性化のため
４　企業・団体等のＰＲにつなげるため
５　大学との連携を強化するため
６　その他（具体的に:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問６ 問４で「あまり受け入れたくない」又は「受け入れられない」を選択した場合、その理由は何ですか。
その理由について、当てはまるもの<u>全て</u>に 〇を付けてください。

１　学生の受入体制が整っていないため
２　学生を受け入れてもメリットが無いため
３　業務上の守秘義務が生じるため
４　実施する期間が無いため
５　その他（具体的に：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【　大学院 地域共創科学研究科（修士課程）の新設について　】

まず、こちらの説明をお読みください。

弘前大学では、社会科学・理工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門分野の垣根を超えた次の三つの力を身に着けた“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー” として育成するために、「 地域共創科学研究科 」を設置することを検討しています。

[地域共創科学研究科が育成する能力]

○　地域社会の厳しい未来を的確に把握し、より良い在り方を構想できる力

○　課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、先頭に立って運営できる力

○　地域社会の機能を持続的に維持し、地域社会の礎となる産業を発展させる計画に、根気強く取り組むことのできる力

[研究科の概要]

○　専門分野の垣根を越えた２つのコースと６の研究指導分野を設置します。

コース	研究指導分野
地域リノベーション	コミュニティデザイン、地域リスクマネジメント、 環境調和型社会づくり
共生マーケティング	地域活性ブランド、地域産業振興、国際戦略マーケティング

[教育カリキュラムの特色]

○「地域社会のリノベーション」「地域発のマーケティング戦略」を柱に、段階的・体系的な教育カリキュラムを編成します。

○　地域社会のリノベーション、地域発のマーケティング戦略に必要な専門知識（社会科学、理工学、農学）を体系的に修得します。

○　食や環境に関するグローバルな視野を涵養します。

○　他の専門分野を俯瞰する視野を獲得するため、文理を越境する「融合科目」を設置します。

○　課題解決型の「地域共創科目」を設け、異なる専門的知識を有する者がチームを組み、地域の専門家と連携しながら、地域の課題解決を実践的に学びます。

問 7　地域共創科学研究科において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。
以下の項目について、あてはまる番号に ○を付けて下さい。

	非常に期待する	やや期待する	どちらともいえない	あまり期待しない	全く期待しない
（1）専門知識・技術を活用する力	1	2	3	4	5
（2）グローバル化する社会への対応力や視野	1	2	3	4	5
（3）地域の現状・課題を理解し、解決する知識や能力	1	2	3	4	5
（4）他の専門分野を俯瞰しチームを組織運営する力	1	2	3	4	5
（5）地域に活力を生みだす産業と仕組みを育てる力	1	2	3	4	5

問 8　弘前大学が計画している地域共創科学研究科の新設について、どのように評価しますか。
該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　高く評価できる　　　2　ある程度評価できる

3　あまり評価できない　　4　全く評価できない

5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問 9　弘前大学が計画している地域共創科学研究科を修了した大学院生を採用したいと考えますか。
該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　採用を検討したい（問 10 へ）　　2　採用してもよい（問 10 へ）

3　採用はない（問 11 へ）　　4　その他（　　　　　　　　　　）

問 10　問 9 で「採用を検討したい」「採用してもよい」を選択した場合、毎年、何名程度の採用を考えますか。
該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　１～２名　　2　３～４名　　3　５名以上　　4　人数は未確定

問 11　問 9 で「採用はない」を選択した場合、その理由について、該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　当面新規の採用予定がないから
2　大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから
3　高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから
4　業務内容（扱う専門分野）が、この研究科の人材養成の方針と合致しないから
5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

引き続き、既設研究科のアンケートにお答え願います。

【　大学院 人文社会科学研究科（修士課程）の改組について　】

まず、こちらの説明をお読みください。

弘前大学は「人文社会科学分野の専門知識・技能等を修得した高度専門人材を養成すること」を目的として、平成 32 年度（2020 年度）に大学院人文社会科学研究科（修士課程）を改組する計画を進めています。

[改組後の研究科の目的]

〇国内外の文化の継承・発展に役立つ専門知識・技能を修得し、文化振興の観点から地域活性化に寄与する人材を養成します。

〇深い歴史理解と多様性認識に立って、世界各地域の情勢を知るための専門知識・技能を修得し、地域のグローバル化に対応できる人材を養成します。

〇自治体や民間企業等の運営に役立つ経済・法律・会計・経営系の専門知識・技能等を修得し、地域の経済・産業の発展に寄与する人材を養成します。

[改組による主な変更点]

〇新たな一専攻（**「人文社会科学専攻」**）のもとに、**三つのコース**と **10 の研究指導分野**を設置します。

[コース]	[研究指導分野]
文化創造コース	文化財論　日本語・日本文学　思想・芸術科学
国際共生コース	歴史文化学　言語科学　欧米文化学　国際地域学
公共政策コース	法学　経済学　会計学・経営学

[教育カリキュラムの特色]

〇「文化」「国際」「政策」を柱に、段階的・体系的な教育カリキュラム編成します。

〇グローバルマインドと多様性認識に立った柔軟性のある思考力を養うことに重点を置いた授業科目を各コースに配置するとともに、英語による授業を充実させます。

〇地域文化の振興、地域のグローバル化への対応、地域の経済・産業の活性化などの、地域の課題を解決するための授業を、地域の専門家や有識者の方々の協力を得て開設します。

〇複数の学問領域にわたる理論・方法論を横断的に適用することで、課題の分析力と解決力を高めるための新科目「多領域横断型科目」を設置します。

〇研究成果を広く、分かりやすく伝えることのできるコミュニケーション力・情報発信力を養成する教育プログラムを導入します。

問 12　弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。以下の項目について、あてはまる番号に○を付けてください。

	非常に期待する	やや期待する	どちらともいえない	あまり期待しない	全く期待しない
（1）高度な専門知識・技能	1	2	3	4	5
（2）専門知識・技能の応用力	1	2	3	4	5
（3）他の専門分野を俯瞰する能力	1	2	3	4	5
（4）自ら課題を発見し、解決する能力	1	2	3	4	5
（5）グローバル化する社会への対応力・広い視野	1	2	3	4	5

問 13　弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）について、どのように評価しますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　高く評価できる　　2　ある程度評価できる

3　あまり評価できない　　4　全く評価できない

5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問 14　弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）を修了した大学院生を採用したいと考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　採用を検討したい（ 問 15 へ ）　　2　採用してもよい（ 問 15 へ ）

3　採用はない（ 問 16 へ ）　　4　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

問 15　<u>問 14 で「採用を検討したい」「採用してもよい」を選択した場合</u>、毎年、何名程度の採用を考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　１～２名まで　　2　３～４名　　3　５名以上　　4　人数は未確定

問 16　<u>問 14 で「採用はない」を選択した場合</u>、その理由について、該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　当面新規の採用予定がないから

2　大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから

3　高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから

4　業務内容（扱う専門分野）がこの研究科の人材養成の方針と合致しないから

5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【　大学院 理工学研究科（博士前期課程）の改組について　】

まず、こちらの説明をお読みください。

弘前大学は「理工学分野の専門知識・技能等を修得した高度専門人材を養成すること」を目的として、平成 32 年度（2020 年度）に大学院理工学研究科（博士前期課程）を改組する計画を進めています。

[改組後の研究科の目的]

○　理工系各専門分野の融合と深化を推進し、社会への還元を目指す社会実装の基盤を支えていきます。

○　学部と大学院博士前期課程が連携した教育を進めます。

○　国際的な競争下にある企業の製造及び研究開発に従事する幅広い視野と高度な専門知識を身に付けた技術者等の育成と、科学・技術の高度化と多様化に順応し得る人材や地域の発展に貢献できる人材の供給を推進します。

[改組による主な変更点]

○　平成２８年度に改組を行った理工学部の学科構成を踏まえ、１専攻８コースの教育課程を１専攻６コースに改組することで、学部教育と博士前期課程における教育の一貫性を実質化し一層の連携を深めます。

・博士前期課程６コース

数物科学コース、物質創成化学コース、地球環境防災学コース、電子情報工学コース、機械科学コース、自然エネルギー学コース

[教育カリキュラムの特色]

○　各コース共通の特別プログラムとして「社会人特別プログラム」及び「留学生特別プログラム」を設置し、高度職業人育成及びグローバル人材の育成を推進します。

○　より幅広い分野の専門知識を身につけるために多様な分野の講義を聴講することを可能とするとともに、高度な研究に集中して取り組む期間を長くし、基礎教育に裏打ちされた発展的教育の高度化を図ります。

問17 弘前大学が改組を計画している大学院理工学研究科（博士前期課程）において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。以下の項目について、あてはまる番号に○を付けてください。

	非常に期待する	やや期待する	どちらともいえない	あまり期待しない	全く期待しない
（１）高度な専門知識・技術	1	2	3	4	5
（２）専門知識・技術の応用力	1	2	3	4	5
（３）他の専門分野を俯瞰し活用する能力	1	2	3	4	5
（４）理学・工学的視点から課題解決する能力	1	2	3	4	5
（５）基礎能力を高め，地域に貢献する力	1	2	3	4	5

問 18 弘前大学が改組を計画している大学院理工学研究科（博士前期課程）について、どのように評価しますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

１　高く評価できる　　２　ある程度評価できる

３　あまり評価できない　　４　全く評価できない

５　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問19 弘前大学が改組を計画している大学院理工学研究科（博士前期課程）を修了した大学院生を採用したいと考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

１　採用を検討したい（ 問20へ ）　　２　採用してもよい（ 問20へ ）

３　採用はない（ 問21へ ）　　４　その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

問 20 <u>問 19 で「採用を検討したい」「採用してもよい」を選択した場合</u>、毎年、何名程度の採用を考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

１　１～２名まで　　２　３～４名　　３　５名以上　　４　人数は未確定

問21 <u>問19で「採用はない」を選択した場合</u>、その理由について、該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

１　当面新規の採用予定がないから

２　大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから

３　高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから

４　業務内容（扱う専門分野）がこの研究科の人材養成の方針と合致しないから

５　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【　大学院 農学生命科学研究科（修士課程）の改組について　】

まず、こちらの説明をお読みください。

弘前大学は「農学生命科学分野の専門知識・技能等を修得した高度専門人材を養成すること」を目的として、平成 32 年度（2020 年度）に大学院農学生命科学研究科（修士課程）を改組する計画を進めています。

[改組後の研究科の目的]

○ 平成２８年度に改組を行った農学生命科学部の学科構成を踏まえ、地元の要望を研究にフィードバックする視点を持った高度な人材を育成します。

○ 青森県や地域のニーズとして要望が高い第１次産業の基盤強化と農林水産業産物の付加価値向上や、国際的な農産物の取引に精通した社会実装の視点を持った高度専門人材育成を目指し、グローバルな視点を持った地方に定住して働く人材を養成します。

[改組による主な変更点]

○ １専攻内に次の５コース並びに英語での受講が必要な東南アジア圏の学生に対応できる教育プログラムコースを１つ設置します。

・生物学コース、分子生命科学コース、食料資源学（改組）コース、国際園芸農学（改組）コース、地域環境工学コース

・留学生用に英語で単位取得を行える「留学生教育プログラム」

[教育カリキュラムの特色]

○ ５コースにおける既存の専門科目と新設の科目を含めた農学生命科学教育プログラムに加えて、留学生教育プログラム（英語教育プログラム）を併設し、社会実装を意識した研究の深化及び地域の課題の俯瞰的な見方と国際的な専門性の深化、企業マインドを涵養します。

○ 地域の企業人や研究機関の研究員を講義に招聘した講義科目、国際的に活躍できる人材養成実習科目や修士論文審査体制、さらに理農連携の視点や他研究科の科目履修による複眼的な視点を養成するカリキュラムとします。

○ 英語での受講が必要な東南アジア圏の学生に対応できる留学生プログラムを設置し，同プログラム内において日本語も学べるようにします。

○ これまでと同様に、社会にでてからの実践的な技術を身につけられる分析技術法や、幅広い視点を養うことのできる副コース制を続けます。

問 22 弘前大学が改組を計画している大学院農学生命科学研究科（修士課程）において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。以下の項目について、あてはまる番号に○を付けてください。

	非常に期待する	やや期待する	どちらともいえない	あまり期待しない	全く期待しない
（１）高度な専門知識・技術	1	2	3	4	5
（２）専門知識・技術の応用力	1	2	3	4	5
（３）他の専門分野を俯瞰し活用する能力	1	2	3	4	5
（４）農学的視点から課題解決する能力	1	2	3	4	5
（５）基礎能力を高め、地域に貢献する力	1	2	3	4	5

問 23 弘前大学が改組を計画している大学院農学生命科学研究科（修士課程）について、どのように評価しますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　高く評価できる　　2　ある程度評価できる

3　あまり評価できない　　4　全く評価できない

5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

問 24 弘前大学が改組を計画している大学院農学生命科学研究科（修士課程）を修了した大学院生を採用したいと考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　採用を検討したい（ 問 25 へ ）　　2　採用してもよい（ 問 25 へ ）

3　採用はない（ 問 26 へ ）　　4　その他（　　　　　　　　　　　　　）

問 25 問 24 で「採用を検討したい」「採用してもよい」を選択した場合、毎年、何名程度の採用を考えますか。該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　１～２名まで　　2　３～４名　　3　５名以上　　4　人数は未確定

問 26 問 24 で「採用はない」を選択した場合、その理由について、該当する番号を１つ選んで、○を付けてください。

1　当面新規の採用予定がないから

2　大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから

3　高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから

4　業務内容（扱う専門分野）がこの研究科の人材養成の方針と合致しないから

5　その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

問27 最後に、弘前大学が2020年(平成32年)度に予定している大学院研究科（修士課程／博士前期課程）の再編について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお寄せください。

その他、弘前大学の教育内容・活動につて、ご意見等があれば、あわせてご記入ください。

※　貴社・団体名、所在地、ご担当者名、ご所属(役職）、ご連絡先（電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス）をご記入ください。　(名刺を同封していただく場合は、下記の記載は不用です)

貴社・団体名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所在地＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご担当者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご所属（役職）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ファックス番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電子メールアドレス＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＠＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◆◆　最後までご協力いただき、ありがとうございました。　◆◆

資料８

（新）人文社会科学研究科（修士課程）の設置に関する企業等へのアンケート調査報告

2018年４月

人文社会科学研究科　専攻代表者会議
企業等アンケート分析ＷＧ

1. 調査概要

（１）調査目的

2020 年4 月改組予定の人文社会科学研究科（修士課程）に対する社会的ニーズを把握することが、本アンケート調査の目的である。調査は、新たに設置を計画している地域共創科学研究科（修士課程）とともに、人文社会科学研究科（修士課程）を含む、改組を計画している三研究科（修士課程）に関わる「弘前大学大学院研究科（修士課程）の再編に関するアンケート調査」として実施された。

（２）調査対象

本学学長戦略室が選定した県内外の企業・団体等、568 社・団体。本学からの過去の採用実績、本学ＣＯＣ（＋）事業での協力関係などをふまえて、広く関わりのある企業・団体を選定した。

（３）調査方法

学長戦略室が、改組に関する説明を付したアンケート調査票を上記対象に送付し、その回答をもとめた。なお、調査票は、新設・改組予定の５研究科それぞれに対する質問項目を一括して記載している。改組人文社会科学研究科の項目は、全質問 1～27 のうち、質問 12～16 である。

（４）調査時期

2018 年2 月 27 日～3 月23 日

（５）調査対象数と回答数

上記 568 社・団体のうち、回答数は 156 社・団体（回収率 27%）であった。なお、本調査報告書は、2018 年4 月 4 日現在のデータをもとに分析している（今後提出の遅れた企業・団体のデータが加わると、若干のずれが生じる可能性がある）。

（６）集計分析

学長戦略室が、回答を入力し、人文社会科学部・総務グループが集計した。この集計データをもとに、大学院人文社会科学研究科、専攻代表者会議の企業等アンケート分析ＷＧで分析を行った。なお、欠損値（設問によって無回答のデータ等）があったため、設問ごとに合計が異なっている。合計数は、各グラフに示す。

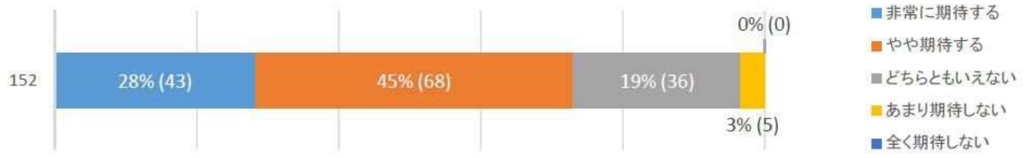
2.　調査結果

（1）人文社会科学研究科（修士課程）への期待（問 12）

質問：弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。

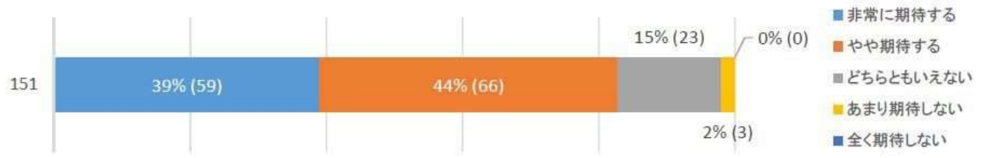
①　高度な専門知識・技能

回答項目	回答数	%
非常に期待する	43	28%
やや期待する	68	45%
どちらともいえない	36	19%
あまり期待しない	5	3%
全く期待しない	0	0%



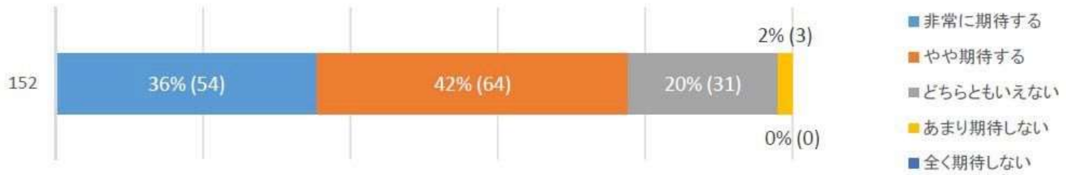
②　専門知識・技能の応用力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	59	39%
やや期待する	66	44%
どちらともいえない	23	15%
あまり期待しない	3	2%
全く期待しない	0	0%



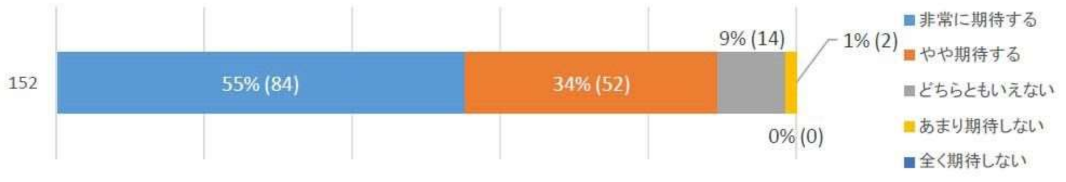
③　他の専門分野を俯瞰する能力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	54	36%
やや期待する	64	42%
どちらともいえない	31	20%
あまり期待しない	3	2%
全く期待しない	0	0%



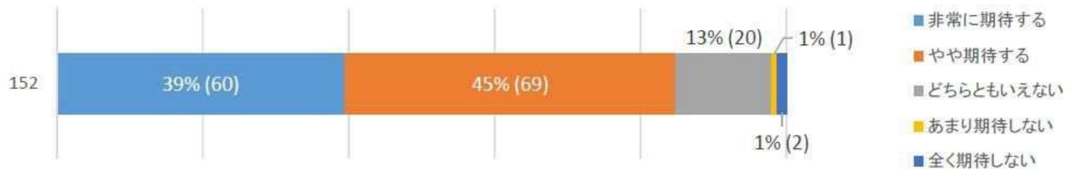
④　自ら課題を発見し、解決する能力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	84	55%
やや期待する	52	34%
どちらともいえない	14	9%
あまり期待しない	2	1%
全く期待しない	0	0%



⑤　グローバル化する社会への対応力・広い視野

回答項目	回答数	%
非常に期待する	60	39%
やや期待する	69	45%
どちらともいえない	20	13%
あまり期待しない	1	1%
全く期待しない	2	1%



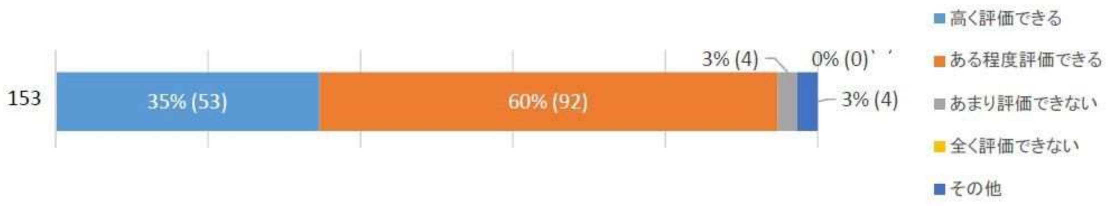
5 つの設問いずれにおいても、「非常に期待する」もしくは「やや期待する」とする回答の合計は、70%台から 80%台にのぼる。改組後の人文社会科学研究科の人材養成に対する企業等の期待は大きい。

なかでも、④「自ら課題を発見し、解決する能力」のある人材養成に対する期待が大きく、「非常に期待する」が 55%、「やや期待する」までを含めると 89%に達している。次いで、⑤「グローバル化する社会への対応力・広い視野」、②「専門知識・技能の応用力」である。

（２）人文社会科学研究科（修士課程）への評価（問 13）

質問：弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）について、どのように評価しますか。

回答項目	回答数	%
高く評価できる	53	35%
ある程度評価できる	92	60%
あまり評価できない	4	3%
全く評価できない	0	0%
その他	4	3%



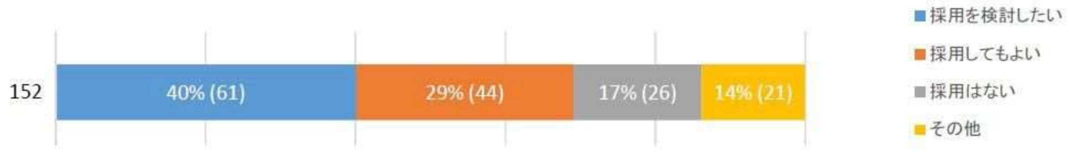
「高く評価できる」とする回答が 35%あり、「ある程度評価できる」までを含めると、評価する回答は 95%である。改組後の人文社会科学研究科に対する、企業等の評価はきわめて高い。

（３）人文社会科学研究科（修士課程）修了者の採用（問 14～16）

①　採用意向

質問：弘前大学が改組を計画している大学院人文社会科学研究科（修士課程）を修了した大学院生を採用したいと考えますか。

回答項目	回答数	%
採用を検討したい	61	40%
採用してもよい	44	29%
採用はない	26	17%
その他	21	14%



②　採用人数

質問：問 14 で「採用を検討したい」「採用してもよい」を選択した場合、毎年、何名程度の採用を考えますか。

回答項目	回答数	%
１～２名	48	45%
３～４名	4	4%
５名以上	2	2%
人数は未確定	52	49%

③ 採用へのハードル

質問：問 14 で「採用はない」を選択した場合、その理由について

回答項目	回答数	%
当面新規の採用予定がないから	4	15%
大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから	4	15%
高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから	6	23%
業務内容（扱う専門分野）が、この研究科の人材養成の方針と合致しないから	11	42%
その他	1	4%

「採用を検討したい」とする回答が 40%あり、「採用してもよい」までを含めると、採用を前向きに考える回答は約 70%である。過去のいわゆる「文系大学院」では考えられないほど高い評価である。改組後の人文社会科学研究科に対する、企業等の採用意向は強い。

一方、「採用はない」とする回答のうち「業務内容（扱う専門分野）が、この研究科の人材養成の方針と合致しないから」とするものが 11 社・団体（回答全体の中で 7%）あったが、全ての企業・団体に採用されることは現実的にありえず、やむをえないものと考える。なお、①「採用意向」の「その他」については2 団体の自由記述があった。いずれも官公庁で、「採用は公務員試験の合格者に限られる（労働局）」、「採用試験結果による（市役所）」としている。修了者が公務員試験に合格し、採用されることは十分に想定される。